

日本環境教育学会第17回大会（北海道）のご案内

日本環境教育学会第17回大会を、つぎのとおり開催いたします。今回の大会では、「グローバルな時代における環境教育の課題」をテーマとします。

主催：日本環境教育学会

後援：文部科学省・環境省・農林水産省・北海道・北海道教育委員会・札幌市・

札幌市教育委員会・江別市・江別市教育委員会・北海道環境財団・北海道新聞社

期日・会場：平成18年8月18日（金）北海道大学学术交流会館

8月19日（土）・20日（日）酪農学園大学

日程：次の表の通り。 ※日程は、若干変更されることがあります。

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月18日						公開シンポジウム				総会		
8月19日		研究発表			ポスターセッション・ 若手研究者の集い		プロジェクト研究			総会		
8月20日		研究発表				関連小集会						

※シンポジウムは一般公開されます。また、8月21日（月）には、エクスカージョンを予定しております。運営委員会を8月19日（土）13：00から開催します。

○公開シンポジウム 北海道大学 日時：18日（金）14：00～17：00（一般公開）

場所 北海道大学学术交流会館

テーマ「グローバルな時代における環境教育の課題」

講演者：石 弘之（北海道大学大学院特任教授）・竹田津 実（獣医師・写真家）

コメンテーター：阿部 治（立教大学教授）

コーディネーター：鈴木 敏正（北海道大学大学院教育学研究科長）

シンポジウム＜グローバルな時代における環境教育の課題＞

環境問題に取り組むのに、「地球的規模で考え、地域で行動せよ」、あるいは「地域のことを考えて、地球大で行動せよ」という「グローバルな視点」の必要性が叫ばれて久しい。とくに1990年代以降のグローバリゼーションの過程で、この視点は環境問題にかぎらず、われわれのあらゆる生活領域の諸問題を解決するために不可欠なものとなってきている。21世紀最初の四半世紀は、そうした視点からの諸実践が普遍的・全面的に展開する時代として、おそらく「グローバルな時代」と呼ばれるようになるであろう。

国連の「維持可能な発展のための教育の10年」がはじまっている今、このような時代状況をふまえ、あらためて環境教育の理論的・実践的課題を捉え直してみたい。

登壇いただくのは、世界をまたにかけたフィールドワークをとおして、地球的視野で環境問題を鋭く提起してきた石弘之氏（北海道大学公共政策大学院）と、キタキツネで知られている写真家でもあり、同時に地域に根ざした環境保全運動を粘り強く展開してきた獣医師・竹田津実氏である。この両者からの問題提起を環境教育学の立場からどう受けとめるか。コメンテーター指定討論者は阿部治会員である。フロアからの意見も含めて、時代を拓くようなシンポジウムとなることが予期される。

（文責：鈴木 敏正＝コーディネーター）

講演：「自然再生の時代へ」

石 弘之（北海道大学公共政策大学院特任教授）

20世紀の後半は人類史上最悪の「環境破壊」の半世紀となった。国連をはじめ国際社会は21世紀前半を「自然再生」の半世紀にするために、さまざまな形で世論を喚起し、矢つぎ早に条約を採択してきた。21世紀半ばに世界人口が90億人を超えることが予測され、人類の生存は21世紀前半の環境回復の努力にかかっているとすると認識も高い。

国内でも開発によって失われた自然環境を取り戻す試みが全国に広がっており、里山の復元、直線化した河川の蛇行化、多自然型川づくり、湿原の復元、漁業団体による魚付林の植林、チョウやトンボの再生など、行政・市民レベルでさまざまな動きが活発になりつつある。

これらの動きを法的に支援する「自然再生推進法」が環境省、国土交通省、農林水産省の3省の主導で2003年1月に施行され、同4月には「自然再生基本方針」が閣議決定された。全国の18ヵ所で同推進法に基づく「自然再生事業」が展開されている。北海道では全国に先駆けて2003年11月に「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、釧路湿原の再生事業がスタートした。

日本の自然を取り戻すために、これから長い戦いがはじまる。自然再生をどう国民の間に定着させるかは、環境教育がその重要なカギを握っていることは間違いない。

講演：「普通の自然を育てる」

竹田津実（獣医師）

一昨年から続いた知床大キャンペーンの騒々しさが終わって少しは落ち着くのかと思ったら、また今年も続らしい。そんな時に友がやってきてコウノトリの野生復帰についての報告やら、佐渡におけるトキの現状について話をしていた。それにしても、この国の人々は天然記念物や遺産が好きな国民だとしみじみ思ってしまった。

コウノトリにしてもトキにしても、返すべき自然の消失が一番頭の痛いところだと言う。ところが自然と言うと知床を代表だと言う。でも、本当はコウノトリ、トキ、ついでに言うとタンチョウやオジロワシもそんな望みを持っていない。ごくごく普通の自然を求めているのにすぎない。

カエルがいる、ドジョウがいる。ホタルが飛んでスズメ、カラス、トンボやオケラがいる自然が大好きなのだ。それらは皆んな小学校唱歌にうたわれる自然のことだ。誰でも知っていた自然のことだ。

こんな普通の自然を私達は失っていることには知らん顔で遺産に大騒ぎしている。

懇親会

日時 18日（金）18：00～20：00 場所 北海道大学生協

○本大会 酪農学園大学（大学各講義室）

研究発表（口頭発表）日時：19日（土）9：30～12：30、20日（日）9：30～12：30

- ・ 研究発表（口頭発表）の時間は、1件12分（発表のみ）です。討論は、内容が関連した発表を原則として3件続けて発表した後、15分間まとめて行います。発表時に第1鈴10分と第2鈴12分（発表終了）、質疑応答時に第3鈴13分と第4鈴15分（質疑応答終了）。発表者および質問者は時間を厳守してください。
- ・ 発表者は、1つ前の講演になりましたら発表会場の前の方の席で待機しておいてください。
- ・ 最初に表題と発表者名を述べてから発表を始めてください。
- ・ 発表用機器として、会場にOHC（資料提示装置）を用意しております。資料提示は、各自でお願いします。
- ・ 質問者は、発言の前に氏名と所属を言ってください。

	0会場 教材	P会場 その他
9:30	201 神戸市シルバーカレッジでの環境学習と効果(1)ー3年間の学習のねらいと環境保全に向けた活動ー ○松本朱実・鎌田靖子(神戸市シルバーカレッジ)	2P1 ナス科作物を使った環境学習指導 山根一晃(鎌倉女子大学短期大学部)
:45	202 神戸市シルバーカレッジでの環境学習と効果(2)ー2年次の学習内容と学生の意識ー ○鎌田靖子・松本朱実(神戸市シルバーカレッジ)	2P2 地産地消の学校給食を支える要因ー食材の納入段階を中心にー ○石山久晶・比屋根哲(岩手大学大学院)
10:00	203 ESD ソクラテス・プログラムー環境リテラシーから環境コンピテンシーへー 新田和宏(近畿大学)	2P3 大学植物園の観察会が学内や地域社会において果たす役割 ～「京大植物園を考える会」の実践から～ ○坂本三和(京都大学フィールド科学教育研究センター)・大石高典(京都大学大学院)・景山貴子・久松ユリ・今山稲子(京都大学生物系図書室)・中島和秀(京都大学附属植物園)・大月健(京都大学図書室)・京大植物園を考える会
:15	総合討論	総合討論
:30	204 大学における環境教育の実施ー「自然に親しむ(ネイチャーゲーム)」の開講中川祐治(愛媛大学総合情報メディアセンター)	2P4 動物園における生命教育と環境教育 高橋宏之(千葉市動物公園)
:45	205 環境系学部生による環境教育実践とその波及的効果に関する考察 花田真理子(大阪産業大学)	2P5 動物園が“野生動物”を伝える 動物系専門学校に対する「ワークシート連動型裏側ガイド」から ○奥山英登・佐賀真一・坂東元(旭川市旭山動物園)
11:00	206 大学学内向け環境教育 DVD の開発 ○瀧澤輝佳(上田市立丸子中央小学校)・熊谷陽一(信州大学)	2P6 旭山動物園が行う地球温暖化展 手書きパネル・サテライト展示・実験・ガイドを組み合わせる ○佐賀真一・奥山英登・田中千春・坂東元(旭川市旭山動物園)
:15	総合討論	総合討論
:30	207 大学におけるビオトープ再生の実践と評価 井元りえ(福岡工業大学)	
:45	208「政治・経済」における環境問題関連の大学入試問題の傾向と分析ー高校生に求められている環境問題関連知識ー ○岩井省一(河合塾)・今村光章(岐阜大学)	
12:00	209「幼児期の環境教育」を実践できる保育者を養成するためのカリキュラム 田尻由美子(精華女子短期大学)	
12:15	総合討論	